

むらおこしコンテストinふつつ2022 実施報告書



東大むら塾



むらおこしコンテ
ストinふつつ
2022 運営本部

目次

1. むら塾代表・企画責任者 挨拶
2. 開催要領
3. 富津市および各対象地区基本情報
4. コンテスト実施記録
5. 各種実施コンテンツ紹介
6. 最終発表会・発表プラン
7. 参加学生アンケートまとめ
8. 関連メディア情報
9. 特別協賛・協賛企業

1. むら塾代表・企画責任者挨拶



東大むら塾代表

東京大学 農学部 2年
広瀬 知弘

東大むら塾は創立以来、「農業×地域おこしでむらの未来を変える」をスローガンに、教科書的な学びではなく日本の中山間部で起きている問題を現地に行き学び取り、解決の一助となる活動を行ってきました。千葉県富津市においては平成27年度から活動を開始し、相川・梨沢地区を中心に魅力ある地域づくりのためのワークショップや地図作成、耕作放棄地削減のための稲作の実施と育てた米の販売、地域の小学生との交流事業である寺子屋事業などを行ってきました。こうした地域住民と大学生によるワークショップで地域を再考する取り組みを富津市内の他の地域に広げるべく「むらおこしコンテスト2022」を開催しました。コロナ禍により現地での活動に大きな制約が加えられた中でも、オンラインという形で継続できたことには大きな意義があると感じています。

今回コンテストの開催にあたりまして多大なるご協力をいただいた天羽地区区長会の皆様、富津市役所の皆様、協賛いただいた皆様には心より感謝申し上げますとともに、今後とも東大むら塾の活動に対するご理解ご支援のほどよろしく申し上げます。

この度は、本企画の趣旨にご賛同の上、多大なるご協力、ご参加を賜りました皆様に、心より深く感謝申し上げます。本年のコンテストは新型コロナウイルスの影響により、参加学生がオンラインで全国各地から参加し、地域住民の皆様は現地に参加するという形態での開催とさせていただきました。我々東大むら塾にとっても地域の皆様にとっても、新しい挑戦となりましたが、地域の皆様から企画準備の段階から当日まで大変なご尽力をいただいたこと、そして全国各地から集まった24名の参加学生が2/10からの4日間、寝る間も惜しんでプランニングに対し真摯に向き合ってくれたことにより、本コンテストを無事に、そして当初の目的を達成しつつ終えることができました。あらためて、皆様からの暖かいご支援、ご協力に感謝申し上げます。

今後ともむら塾一同精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



企画責任者

東京大学 教育学部 3年
武居 悠菜

2. 開催要領

主催 東大むら塾

協力 富津市・天羽地区区長会

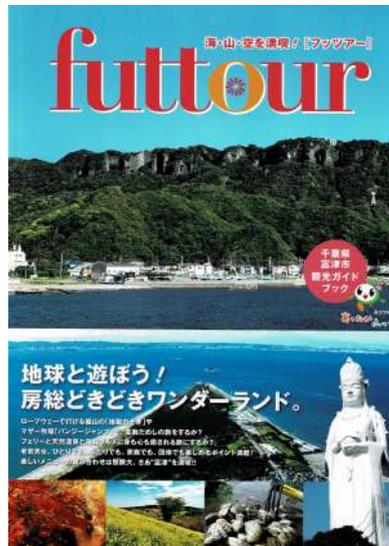
日程 令和4年2月10日(木)～13日(日)

参加者 大学生24名

会場 新型コロナウイルスのためオンライン
(最終発表会は富津市市民会館でパブリックビューイング方式で中継)

参加費用 無料

むらおこしコンテスト(通称:むらコン)の機運を高めると同時に天羽地区について深く知っていただくため、参加者にはプレゼントとして東大むら塾ブランド米・てとて、富津市観光パンフレットfuttour、むらコンパンフレットを事前送付いたしました。



企画コンセプト

「住民目線で、日本一ミクロな地方創生」

昨今、様々な分野で政策提言コンテストが開催されており、地方創生の分野でも同様の取組みが活発になってきていますが、これらの取組みの多くが自治体や中央省庁、NPOなどを開催主体とした「行政目線」で行われており、実際に住民の声に寄り添ったプランコンテストの開催は多くありません。住民の実情をより反映させ、住民とともに地域課題の解決を図っていく「住民目線」でのコンテストが必要であるという意識のもと、本コンテストを企画しました。また、私たち東大むら塾が感じてきた、「住民」ではない「外部の人間」として地域課題に携わっていく難しさや、「住民目線」を追求する体験を多くの学生に共有したいという想いもございました。

コンセプト実現に向けた本企画の特長

参加学生の皆様は、まず東大むら塾生があらかじめ地区を巡って準備した地区資料や区長さん、住民の皆さんへのオンラインインタビューなどを通して富津市の課題や現状を学びます。そして、学んだことを踏まえて把握した地域課題への解決策を練り、最終的にそれらの案の発表を行い、審査員からのフィードバックを受けます。本コンテストを通じて、参加学生には行政ではなく学生が地域に入り込んで課題を考える意義を踏まえ、住民の生活を常にイメージし、住民の方々の視点に立って課題解決に取り組み、このコンテスト自体が単なる課題・解決策の発見に留まらない地方創生の一環であることを意識して頂きます。以上に掲げるような、「住民目線」の徹底した追究が、本コンテストの第一の特長です。

そして、第二の特長が、地区の区分に沿って行われるチーム編成です。具体的には、参加者の皆様には地区単位でチームを組み、それぞれに地域に密着して活動し、プランを立案して頂きます。これにより、各地区の実情に即し、インパクトを与えるような課題解決を図ることが可能になる上、それぞれの地区が他地区との差別化を通して固有の魅力を存分に発揮できます。また、ミクロな視点・領域で課題解決に挑戦できるため、4日間という比較的短い日数でも対象地域の課題を把握しやすくなり、十分に現実的で効果的な立案・提言を行い、達成感を得ることが可能になると思われれます。

3.富津市および各対象地区の基本情報

(1) 市の紹介

(富津市HPより引用：<http://www.city.futtsu.lg.jp/0000000526.html>)

富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40キロメートルに及ぶ海岸線と、緑豊かな鹿野山や、切り立った崖の鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かなまちです。

東京湾に突出した富津岬は、関東の天の橋立といわれ南房総国立公園にも指定されています。富津岬の最先端にある五葉松をかたどった展望塔は、東京湾を一望できるだけでなく、冬に空気が澄んだときは富士山をくっきり観ることができます。また、ここから観る富士山は絶景で、関東の富士見百景に選ばれています。

東京湾アクアラインや館山自動車道の開通で、首都圏からのアクセスが向上、利便性が高くなり、潮干狩りや海水浴、ハイキングなどで多くの皆さんに楽しんでいただいています。

「市民が自信をもって次世代にバトンを渡せる富津市づくり」を念頭に、富津市に住むことに誇りや愛着を持ち、幸せを実感していただけるよう取り組んでいます。

沿革

明治22年(1889)町村制の施行によって青堀村、富津村、飯野村が誕生しました。

明治30年には富津町、大正15年に青堀町と改め、町村合併促進法の施行により、昭和30年(1955)に富津町、青堀町、飯野村が合併して富津町となり、旧大佐和町も町村制の施行により、大貫村、吉野村が合併し、大貫町となり、さらに昭和30年大貫町と佐貫町が合併して大佐和町となりました。

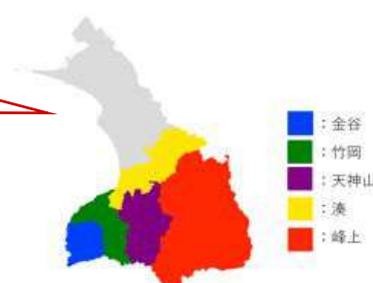
また、旧天羽町は湊町、天神山村、竹岡村、金谷村が合併し、天羽町となって、昭和30年峰上村、環村、関豊村が合併し、峰上村となり、昭和38年(1963)に天羽町と合併しました。

昭和46年4月25日(1971)に3町合併により、富津町となり、同年9月1日に市制施行による富津市が誕生しました。

(2) 各地区の概要

この度のコンテストでプランニングの対象となった地区については、東大むら塾生が、参加学生向けに、地区の現状や課題を、文献調査や住民の方へのインタビューなどを通じてまとめた地区資料を作成しました。作成にあたりましては、インタビューをさせていただいた住民の方々をはじめ、多くの地域の方々にご協力いただきました。あらためて御礼申し上げます。次ページより作成した地区資料のまとめを地区ごとに掲載いたします。

富津市の南半分、色がついている部分が今回の対象エリア「天羽」です！



竹岡 第5区

人口：157人
男性79人 女性78人
平成31年時点
(参考：[富津市統計書](#))



竹岡地区の地図([こちら](#))

● 特色

- ・海と山双方の恵みを楽しむ竹岡のうち山林に囲まれる農村地域。関山・下白狐・上白狐の三集落から成る。
- ・初午(二月初旬ごろ)には、魔除け・厄除けのわらじ作りが行われる。古くから継承される地域の伝統行事。あえて完全には作り切らないのが特徴的。
- ・関山地区では、地域外に働きに出る人が多い中、「ふるさと」を守り残すために活動する「同心会」や、地域の農村環境を保全するために活動する「環境保全会」といった、住民主体のむらおこしの活動がある。
(右上下の写真は同心会による昨年のイルミネーションの様子)

● 課題

- ・以前から獣害が問題で、獣害により柿などの栽培を諦めた事例もある。地区内には猟師はおらず、地域全体での対策もないため、各自で対応している。
- ・竹岡小学校が廃校になったことで、地域と子どもたちとの関わりが一層希薄になった。
- ・人口減少や少子高齢化に伴い、農業の後継者不足や耕作放棄地の増加が問題になっている。また数年前の台風の被害もあり、山林は荒廃している。
- ・竹岡ICに近いが、山深いところに位置するため交通が不便である。医療や買い物には地区外に行く必要があるが、バスは週2日で本数も少ない。自家用車は必須。

金谷 第3区

人口:214人
男性108人 女性106人
平成31年時点
(参考:[富津市統計書](#))



金谷地区の地図

<https://goo.gl/maps/qPCj4EvWuSMNvRgNA>

● 特色

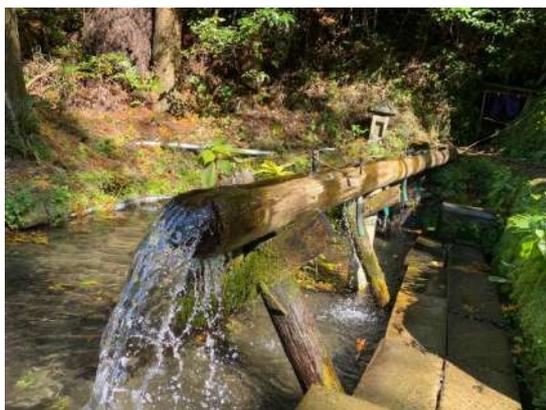
- ・房州石の採掘と漁業で栄え、近年では「石と芸術のまち金谷」をテーマにまちづくりが進められている。
- ・東京湾フェリーを利用して訪れる観光客が多く、土日祝日には、フェリー乗り場に程近い商業施設「the Fish」とその周辺の飲食店が賑わう。
- ・鋸南町との境に位置する鋸山は、ロープウェーやハイキングコースが整備されており、コロナ前は外国人観光客にも人気だった。
- ・かつての採掘場を見学して歴史を感じたり、山頂からの絶景を楽しんだりすることができる
- ・金谷は「フリーランスの聖地」としても知られ、若い世代を中心に、Webスキルの向上を目指し短期移住する方が多くいる。

● 課題

- ・地区内に旅館はあるものの、良くも悪くも日帰りで満喫できるため、宿泊客は少ないのが現状。
- ・住民目線では、休日にロープウェーの駐車場付近が混雑し、国道が渋滞してしまうことや、バイクの騒音を不快に感じている方もいらっしゃる。
- ・商売やWebスキルの向上のために移住する若い世代はいるものの、長く住み続ける人は少なく、一部マナーの悪い人がいることも問題となっている。
- ・2020年3月をもって金谷小学校が閉校となったため、子育て世代は集まりにくくなっている。
- ・ご高齢の方を中心に、巡回バスや病院・薬局の不在を課題として挙げる方も多い。

峰上 第1,2,3区

人口:639人
男性320人 女性319人
平成31年時点
(参考:[富津市統計書](#))



滝の不動尊

峰上地区の地図

<https://goo.gl/maps/eqBDFxE7bt1GrQe69>



環小学校グラウンド



諏訪神社

● 特色

- ・ほとんどが稲作農家だが、そのほぼ全員が兼業農家。畑作をされている農家の方も若干いるが、出荷までしている方はかなり少ない。
- ・柿、栗を育てている方もいるが、出荷はしていない。椎茸を出荷している方ならいるそう。
- ・マザー牧場のある鹿野山、日本猿の生息地である高宕山、きれいな湧き水が流れる水室山、鮎の生息する湊川など、豊かな自然に囲まれた平野地区。

● 課題

- ・柵をたくさん設置しているとはいえ、猪や鹿、猿などによる被害が絶えず、農家離れが止まらない。
- ・小学校の生徒数はピーク時 1学年100人いた時期もあったが、今現在全校で 54人しかおらず、なお減少が続いている。
- ・高齢化率が47.2%と高く、少子高齢化が顕著である。
- ・医療施設が少ないことや、食料品店がなくなったこと、公共交通機関が不十分なこと、職のなさなどから、地区外(主に木更津)に人が流出してしまっている。

天神山1区 海良

人口：248人
男性120人 女性128人
平成31年時点
(出典：[富津市統計書](#))



天神山地区の地図

● 特色

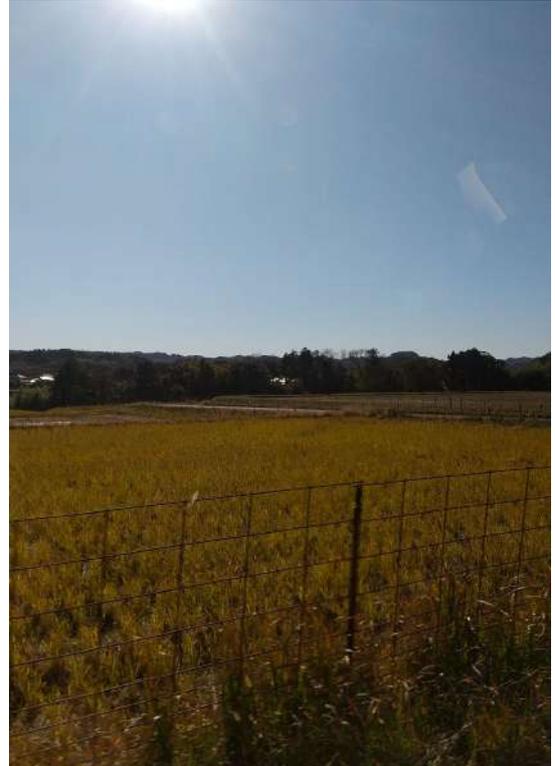
- ・海に良いという字が示すようにかつては石を切り出して海運する産業があった。
- ・圃場整備を行っていないため、近年はほぼ見られないかつての里山の田園風景が広がる。
- ・移住者を含む若い地域住民がほぼ全員参加してお祭りを盛り上げる団体「海良さくら会」がある。
- ・天神社や縄文時代の出土物など歴史的なものが残っている。

● 課題

- ・農業の生産性は高くないうえ、獣害被害もあり農地保全が今後大変である。
- ・地域をあげて子供や大人総出で祭りの囃子や盆踊りをしてきたものの最近の子供が減っている。
- ・家や農地などが人口が減っていくか荒れてしまわないか心配。
- ・近くに仕事場がないが、リモートワークへの可能性を感じる。

湊 12区 桜井地区

人口: 148人
男性74人 女性74人
平成31年時点
(参考: [富津市統計書](#))



湊地区の地図

<https://goo.gl/maps/u2PcKKtFs7cCT6YA6>

● 特色

- ・マザー牧場の敷地の一部がこの地区に属し、牧場へ向かう道路が通っている。また、牧場の役員と地域住民の交流の機会も度々設けられている。
- ・海にも山にも近く、自然が非常に豊かである。
- ・稲作が盛んで、地区の至る所に田んぼが広がっている。

● 課題

- ・公共交通機関がない。君津などとマザー牧場を結ぶ観光客向けの直通バスは通るが、地区内にバス停はない。
- ・道路整備が進んでいない。(道幅が狭く、他地区や主要道路へアクセスも悪い)
- ・高齢化と若い世代の流出が進む
- ・マザー牧場に近いものの、観光の恩恵はあまり受けられていない。(観光客は素通りする等)
- ・田んぼや畑の周りに柵を設けているものの、獣害が絶えない。

4. コンテスト実施記録

2022年2月初頭

事前課題等配布。地区によっては事前にzoom上で顔合わせを行いました。参加学生にはプレゼントの送付も行いました。

2月10日(1日目)

開会式の後には地区ごとにアイスブレイク。その後は地区資料の読み込みと区長インタビューを行い、現状を学びました。夕方には住民目線ワークショップを実施、本企画のコンセプトの一つである住民目線について考えを深めることができました。夕食休憩を挟み、夜は地区をシャッフルしての交流会で、参加学生同士親睦を深めました。

2月11日(2日目)

2日目、午前中は住民の方にインタビューを行い、地元の方のリアルな課題感を認識しました。プランニングに生かそうと、真剣に住民の方のお話に耳を傾ける様子が見られました。午後は本企画の目玉企画の一つであるパネルディスカッション。国内のさまざまな地域で第一線で活動されている4名のパネリストをお招きし、地方創生についてのディスカッションを行いました。

2月12日(3日目)

3日目はどの地区もプランニングが主となりました。前日までに住民の方からお聞きした情報や地区資料の情報をもとに課題解決のためのプランを考えていきます。ある程度プランが形になったところで午後にメンターフィードバックを実施、メンターの方からプランに対する助言を受け、それを踏まえてさらにプランニングを進めました。地区によっては夜遅くまでプランニングに取り組んでいました。

2月13日(4日目)

ついに最終日を迎えた参加学生の皆さんは午後の最終発表会に向けた準備を進めました。14時から集大成となる最終発表会を実施、その様子を住民の皆さんは富津市民会館でパブリックビューイング方式でご覧になりました。どの地区も限られた時間の中で考え抜いた自分たちの案について熱く語りました。最優秀賞の発表等を行い、4日間にわたるむらコンが終了しました。終了後の最後の学生同士の顔合わせでは参加学生にやりきった充実感で満たされた表情が見られました。

5. 各種実施コンテンツ ご紹介

開会式

今回のむらコンはオンライン開催ということで、開会式は市民会館で行っている様子をzoomで繋ぎ、参加学生は全員zoom上で参加するという形で開催しました。むらコンの開催にご協力いただいた富津市長様、天羽地区区長会の会長様にご挨拶をいただいたあと、企画の説明、来賓の皆様や参加学生の紹介を経て2回目のむらコンが幕を開けました。



地区資料読み込み・区長インタビュー・住民インタビュー

今回のむらコンでは、参加学生が実際に現場を訪れて課題を認識するということできません。そこで、地域のことを知るとい段階では事前に東大むら塾の担当者が用意した地区資料(その地域の現状や課題等が、実際の訪問を元にまとめられた資料)を読み込み、それらを踏まえてさらに知りたいと思ったことに関して区長さんや住民の方にオンラインでインタビューをするということを行いました。参加学生からはオンラインでの開催であっても住民の方の生の声を聞くことができたことに関して肯定的な声が聞かれた一方で、「もう少し幅広い年代の方の意見を聞きたかった」という声もありました。



住民目線ワークショップ

むらコンの一つの重要キーワードである『住民目線』についての考えを深めるワークショップを地区混合でチームを作り、行いました。架空の村を設定し、その地域における活性化プランを客観的に評価することを通して、住民目線とはどういうことなのかを考えていきます。参加学生からは、「プランニングの際にこのワークショップを思い出して住民目線に立ち返ることができた」などといった声が聞かれました。また、「純粋に自分の担当地区以外の参加学生と交流を楽しむことができた」といった声も聞かれました。



参加学生交流会

むらコンという機会をきっかけに4日間一緒に過ごすことになった参加学生同士や参加学生と東大むら塾生の一期一会を大切にしたいとの思いから1日目の夜に参加学生交流会を実施しました。zoomでのブレイクアウトルームでは、プランニングなどむらコンの他のコンテンツではなかなかできない普段の生活に関してや興味のある分野についてなど、他愛のないトークで盛り上がりました。

パネルディスカッション

地方創生や地域創生、地域活性化に関する学びを深める目的で、今回のむらコンでは初めて4名のパネリストの方をお招きし、パネルディスカッションを実施いたしました。テーマは『地方創生の真価～今のままじゃだめなのか～』。テーマに沿ってむらコン2日目の14時から2時間程度、国内で地域活性化関連の事業に携わっていらっしゃる加藤様、高橋様、多田様、中川様(パネリストについては下参照・50音順)にお話を伺いました。これからの日本の地方の運命から実際に地域に入るうえでの心構えまで、幅広くお話を伺うことができました。参加学生からも第一線で活躍されている方のお話を聞くことができ、とても勉強になったといった声が聞かれました。なお、当日のパネルディスカッションのアーカイブはYouTubeにて公開しております。以下のQRコードよりご覧ください。



加藤慎康氏
合同会社カモケンラボ
代表



高橋博之氏
株式会社ポケット
マルシェ代表



多田朋孔氏
NPO法人地域おこし
事務局長



中川敬文氏
株式会社イツノマ
代表取締役



むらコン2022 パネルディス
カッション アーカイブ

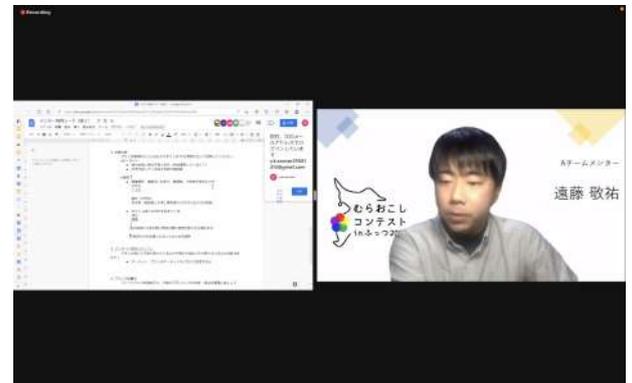
プランニング

2日目のパネルディスカッション後から各チームでプランニングが本格化しました。住民の方や区長さんへのインタビューから見てきた地域の課題・地元の人々の思いを丁寧に汲み取りながらディスカッションを進めていきました。参加学生が普段大学で学んでいることを活かした意見やパネルディスカッション、住民目線ワークショップで考えたことを踏まえた意見等も出されており、どのチームでも白熱したプランニングが朝から夜遅くまで繰り広げられていました。一部のチームは東大むら塾生が地区を回ってその様子の中継することで地区のことをより深く観察していました。



メンターフィードバック会

3日目の午後には、東大むら塾OBが各地区のプランへのフィードバックを行いました。中には厳しい意見が出されたチームもありましたが、どのチームも受け取ったフィードバックを活かしてプランを改善していました。参加学生からも「プランを第三者の視点から見直すいいきっかけになった」という声が聞かれました。



最終発表会

4日目(最終日)の午後には4日間のプランニングの集大成として各チーム15分ずつプランニングの成果を発表しました。どのチームも時間いっぱい考え抜いた素晴らしいプランを堂々と発表し、発表後には各チームの発表後には会場の住民や来賓の方々から惜しめない拍手が送られました。審査員7名による審査の結果、優勝は金谷チームに決定しました。優勝した金谷チームのプランを含む全チームのプランについては次ページ以降で詳しく取り上げております。ぜひご覧ください。また、最終発表会については「緊張したが一生懸命発表できた」など、やりきったことが窺えるコメントが学生から寄せられました。市民会館で発表をご覧になった住民の方からも学生が4日間という時間をかけて真剣に地域について考えたことを高く評価するコメントをいただきました。



6. 最終発表会・発表プラン

むらおこしコンテストinふつつ2022最終日の2月13日(日)、最終発表会が開催されました。今回は参加学生はzoom上で発表、その様子をパブリックビューイング方式で富津市市民会館で映し出し、住民の方々、ご来賓の方々、現地審査員の方にご覧いただきました。お忙しい中、最終発表会に参加して下さった住民の皆様、ご来賓の皆様、審査員の皆様には心より御礼申し上げます。なお、当日審査員として各チームの発表を審査して下さったのは以下の6名の皆様です。

富津市長
高橋 恭市 様

天羽地区区長会会長
鳶津 澄夫 様

富津市新富工場協議会事務局
日本製鉄株式会社 技術開発本部(オンライン審査員)
橋本 茂 様

合同会社カモケンラボ代表 (オンライン審査員)
加藤 慎康 様

株式会社 ポケットマルシェ代表 (オンライン審査員)
高橋 博之 様

NPO法人地域おこし事務局長 (オンライン審査員)
多田 朋孔 様

株式会社イツノマ代表 (オンライン審査員)
中川 敬文 様

どのチームの発表も非常に充実しており、素晴らしいものでした。各チームの発表プランを次ページより掲載いたします。スライドの画像につきましては参加学生が作成し、発表で使用したものを一部抜粋して掲載しております。また、発表会の様子はYouTubeにて公開しております。右に、QRコードを掲載しますのでぜひご覧ください。



第二のダイニング

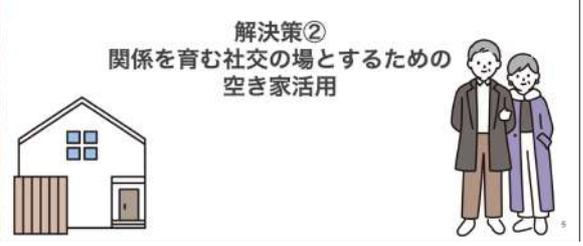
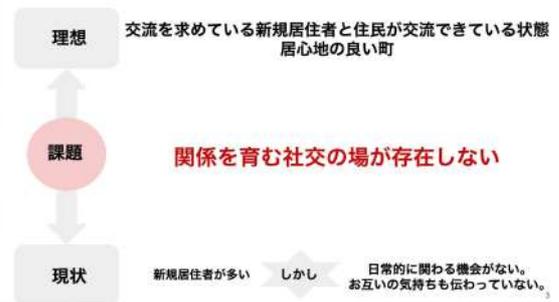
～交流を求める人々を繋ぐ架け橋～

チーム金谷地区では、第3区「荒戸」を舞台に「第二のダイニング」と題したプランを立てました。房総の一大観光地である金谷では、飲食店経営を始める方が多いほか、フリーランスの聖地としても知られ、Webスキルの向上を目指す若者がやってくるなど、新規居住者が多いことが特徴です。しかし、住民の方からは、新しく来た人との関わり方が分からない、お互い挨拶もしないし閉鎖的に感じるなどの意見がありました。一方、新規居住者の方からは、Webの仕事だから閉鎖的になりがちだが、地域と関わりたいと思っている人もいてという声が聞かれ、従来の住民と新規居住者とが関係を育む社交の場が不足していることが分かりました。そこで、私たちは二つの施策を考えました。

一つ目は、金谷コミュニティセンターの活用です。設備は充実しているにもかかわらず、和室や調理実習室が使用されるのは年に1回程度であるという実態があります。そこで、コミュニティセンターを日常的に開放して地域の人の交流の場にするほか、地域の飲食店のテイクアウト販売、歴史・料理・パソコンなどの教室といったイベントを定期的を開催することを考えました。

二つ目は、空き家の活用です。金谷を離れた子供世代が親の家を引き継いでも、仕事の都合で住むことはできず、維持管理が大変という状況があります。そこで、その空き家を期間限定で賃貸し、地域の人々の居場所にするのを考えました。リビング・ダイニング・キッチン交流の場として利用し、個室部分は新規居住者や一時的に金谷に戻ってきた人の仮住まいとして利用します。

こうした施策により、金谷が従来の住民の方にとっても新規居住者の方にとっても居心地の良い街になることを願っています。



リアルドラクエやりませんか？

～第二の故郷から始めるワクワク冒険物語～

チーム竹岡地区は、山林に囲まれた農業地域である、竹岡五区(上白狐・下白狐・関山)を主な舞台に、国民的ゲームの一つ「ドラゴンクエスト」をモチーフにしたプランニングを行いました。

竹岡五区は、山や海、川の豊かな自然や人々のあたたかさ、受け継がれてきた伝統行事が魅力的な地域です。一方で、獣害や山林の荒廃などの多くの課題を抱えています。その根底には人口減少があり、地域住民が外部の人に対し抵抗感を抱いていることや、地域の魅力を十分に認識・発信しきれていないことが要因ではないかと結論づけました。

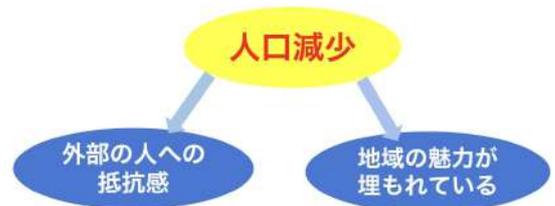
そこで、竹岡の多彩なフィールドを活かした、漁業・農業・山林保全・その他(伝統行事等)の4部門での「クエスト」の運営を提案しました。「クエスト」は竹岡の魅力を題材にした体験活動を指し、例えば農業部門では、魅力の一つである質の高いお米に焦点を当てた、田植え体験などを挙げています。「クエスト」を通じて竹岡の魅力をPRしながら、参加者と地域住民の対話の場を設けることで魅力を共有し、「今日を生きること」にワクワクする竹岡作りを目標としています。また、「クエスト」の報酬として地域の商店で使える地域共通マネーを導入し、経済的な波及効果も図っています。コロナ禍という現状を考慮し、地域住民を対象に「クエスト」を実施する短期目標、一般客を対象に「クエスト」を拡大する中期目標、そして収益を資金に地域の諸課題の解決に繋げるという長期目標を設定しました。

コロナ収束が不透明な中でのモチベーションの維持や収支面の課題もありますが、地域住民や参加者、自治体全てにプラスになることを願って提案しました。

リアルドラクエやりませんか？
～第二の故郷から始めるワクワク冒険物語～

～むらコン2022 in 富津～
竹岡地区担当
濱口、金谷、齋藤、木村

4. 竹岡の課題



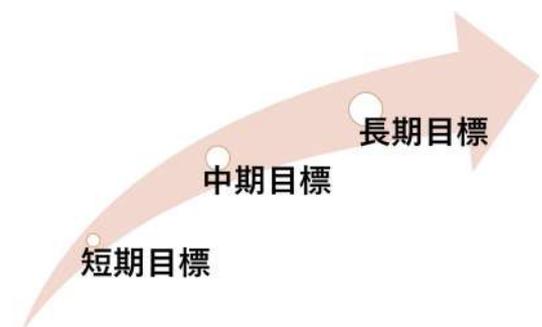
5. 企画概要

竹岡の多彩なフィールドをクエストの場として運営！

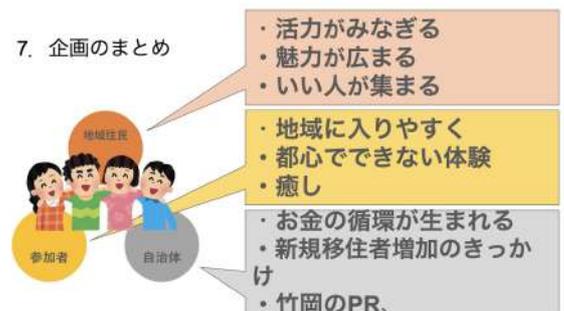


最終目的

対話の場構築による繋がり形成+課題解決
= 「今日を生きること」にワクワクする竹岡



7. 企画のまとめ



チーム天神山地区 発表タイトル

海良ん番

チーム天神山地区は、天神山第1区「海良」を舞台にプランニングを行いました。天神山地区の中でも上総湊駅からの距離や幹線道路からのアクセスがよく、新しく宅地開発でできた天神台など移住がみられる地域です。圃場整備の未実施地域であり、大規模な農業者がいないなどの背景から耕作放棄地が多いものの、農地保全会といった会を中心に農地の保全運動があり環境が整えられています。また、「海良さくら会」という青壮年会を中心に住民全体を巻き込んだお祭りの準備をする体制があるなど地域づくりの活動を行う枠組みは整っています。一方で、少子高齢化の問題や、若年層の転出などによってこうした活動に関わる人の高齢化が進んでいることや、こうした活動に対する危機意識などが住民間で共有されていないなどの問題が目立つようになってきております。

コンテストではこうした背景の分析をもとに、危機意識の共有や将来像のすり合わせのためのアイデアを考えました。「海良ん番(かいらんばん)」と第したプランでは地域の問題点、課題点、魅力などといった項目を盛り込んだ地図を住民を積極的に巻き込みながら作っていくことを提案しています。地図を作った後の課題や魅力を明確に示すことができるという利点だけでなく地図を作る過程においても住民同士の交流を図り、社会関係資本の構築を期待することができます。

進め方、人の集め方、地図の活用方法については十分に議論しきれなかったものの費用面、アクターに関しても具体的にプランを作ることができました。参加学生からも、自分達の今まで持っていた感覚と実際に地域の人を感じている感覚の差を感じ良い経験になったなどと好意的な感想を聞くことができました。



海良の歩き方

内容：地図作りのためのウォーキング会。
集まりやすい場所をスタート地点に設定。
多様な職業、年代を混ぜた4人組で
実際に獣害被害が起こっている場所など
課題と白地図を書き留めながら歩き、戻って発見の共有をする。
役員会で白地図からエクセル上の地図にまとめて
地域住民に「回覧板」で共有する。



抽出した課題

- ・住民同士、危機感が共有されていない
ex) 「お墓が守れない」
「こどもにとっては故郷だが、孫にとっては故郷じゃない」
「農地保全がおいついていない」
- ・考えたくない、あきらめ
ex) 「私は関係ない。もう電話をかけてこないでくれ」



今後の展望

- 1st. 可視化が解決意欲を上げ、アクションが起こる。
- 2nd. アクションによって課題解決する = 住みやすくなる
- 3rd. 実績が作られることで、意欲がさらにあがる。
住みやすくなる/住みやすくしようとしていることに魅力を感じる。
- 4th. その魅力に困って人が残る、人が戻ってくる。
→ 農地保全や空き地のマンパワー不足の解決。
→ 土地や家を使う人、働く人の創出が、この地域の維持を実現。

『海良ん番』 -海良住民みんなでドリームマップ作り-

マップ内容:
①道幅や斜面などの点検マップ
②農地の保全状況、獣害の被害状況マップ
③改善案と理由のマップ (理想の見える化)
④残したいものマップ

対象：海良の全世代の住民

費用：用紙代・印刷代・エクセル利用費用 (合計1万円程)



チーム湊地区 発表タイトル

スローライフ検討者に向けた オーダーメイド型移住体験

チーム湊地区は今回、湊地区のなかでも山側の地域である、桜井地区に焦点をあててプランニングを行いました。この地域はJRの駅からもバス停からも離れている地区で道が狭いという交通面での課題があります。少子高齢化、後継者不足などの大きな課題もあるとの意見が住民の方々から上がりました。その根本には人口減少があるのではないかと考え、地区を存続させるためにはその点を解決する必要があると考えました。桜井地区の特色である、隣接するマザー牧場、豊かな自然、地区の専門技術をもつ協力的な方々を生かしたプランとして「スローライフ検討者に向けたオーダーメイド型移住体験」を考えました。

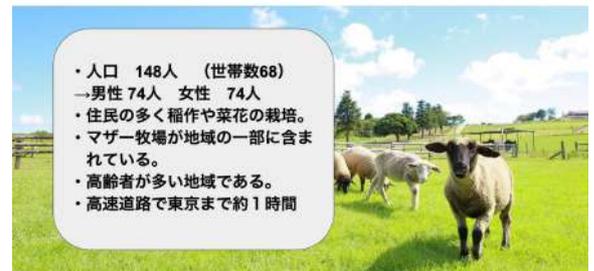
このプランの実施には大きく分けて2段階があります。1段階目には意欲のある学生団体と地域の知識、技術を持つ方々、そして地域おこし協力隊で協力して空き家をDIY(Do It Yourself:自分自身でやる)して改修を行います。空き家の存在や地域にDIYをやっている方々がいらっしゃる点から着想を得たものです。実際の実施時の負担を考慮し、一棟のみの実施を想定しました。

2段階目に、移住者に向けての移住体験プログラムを設定しています。第一段階で改修した空き家にお試し移住体験をするものです。野菜の販売先としての活用や、農業体験を提供する他、地区の豊かな自然、マザー牧場といった魅力を発信し、移住先として桜井地区を広報していくねらいがあります。空き家バンクやSNSの利用による広報を想定しています。

クラウドファンディング、体験利用者からの収入での運営を想定していますので現実性や運営等の課題がありますが、新たな視点で地域の活性化が起こることを願っています。



湊地区桜井の概要



- ・人口 148人 (世帯数68)
- 男性 74人 女性 74人
- ・住民の多く稲作や菜花の栽培。
- ・マザー牧場が地域の一部に含まれている。
- ・高齢者が多い地域である。
- ・高速道路で東京まで約1時間

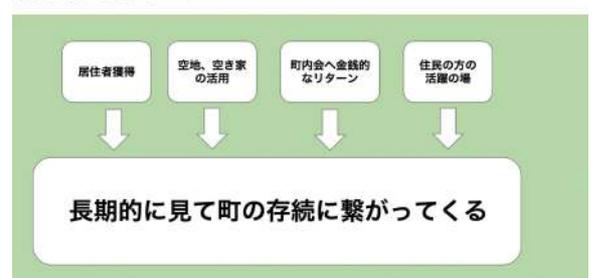
第一段階：空き家のDIYを実施



第二段階：湊地区桜井 おためし移住



得られるリターン



チーム峰上地区 発表タイトル ふつつあにあ

チーム峰上地区は、峰上地区の中心部にあたる第1区(関尻・上後)、第2区(小志駒・岩本)、第3区(田原・山脇)を舞台にプランニングを行いました。この地域は、鮎が生息する湊川や綺麗な湧水が出る「滝の不動尊」などがあり、田園風景が広がるとても自然豊かな地域です。また、「関尻の大わらじ」という厄除目的の大きな草鞋を作る風習が残り、源頼朝伝説が残る諏訪神社などもあります。

一方で、多くの地域と同様に、少子高齢化や獣害、若者の流出などの深刻な問題を抱えています。チーム峰上地区は今回、子ども連れのご家族の定住を目指したプラン立案を行いました。

立案したプランの名前は「ふつつあにあ」。子ども向けの職業体験サービスを提供する「キッズニア」から着想を得ています。地域にある空き家などを拠点として活用し、地域外から来た子ども連れの家族が農業体験や地域での生活体験を行うことができるサービスの提供を目指しています。峰上地区の名前にちなんで、地域でのお祭りなどで利用できる地域通貨「ミネー」の導入などもプランの一部として提案しました。まずは「関係人口」を増やすことで、最終的には少しでも定住者の増加に繋がることを目指したプランとなっています。

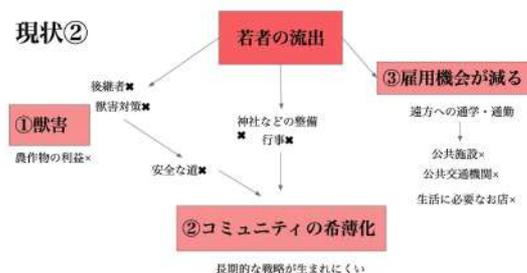
実現可能性や企画設計の詳細部分で課題がありますが、今回チーム峰上地区が提案したプランの中に今後の地域の発展に活かせる視点があることを願い、4日間朝から夜まで議論を重ねてプランを考えました。

峰上地区ってどんなところ？



- 人口：639人
- 特色：稲作地域
- 交通：東京駅→峰上地区
- 1. 車：約1時間半
- 2. 電車とバス：約2時間半

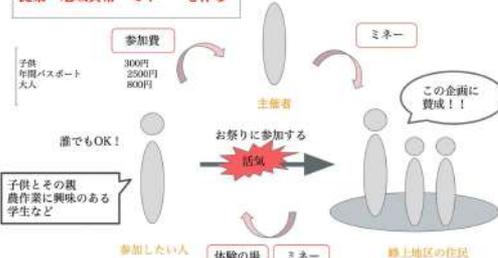
現状②



理想の町



提案 地域貨幣「ミネー」を作る



7.参加学生アンケートまとめ

むらコン2022実施後、参加学生を対象にアンケートを実施いたしました。

アンケート概要

- ・記名方式、選択質問、自由記述の質問混在
- ・参加学生が全員参加しているスラックチャンネルにアンケートを行うGoogleフォームのリンクを送信し、アンケートの依頼を行った。
- ・できるだけ多くの回答が得られるよう、同じスラックチャンネルにて複数回リマインドを行った。
- ・参加学生24名に対して実施、うち21名から回答を得ることができた。
- ・各コンテンツへの満足度や時間配分の適切さについて、「あまり満足していない(短すぎる)」を1、「大変満足している(長すぎる)」を5として、各項目5段階で評価してもらった。
- ・適宜、自由記述欄を設け、各コンテンツについての意見・感想を募った。

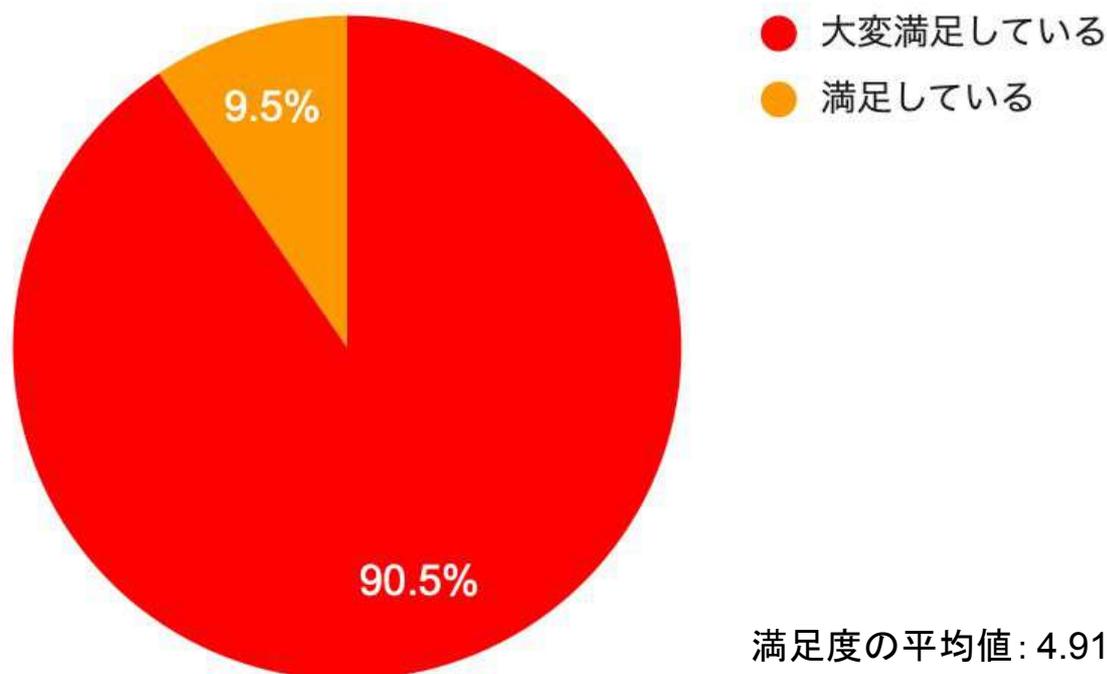
次ページより、アンケート結果の一部を公表いたします。なお、5段階評価については得られた回答は全て反映しております。

また、次ページからのアンケート結果において満足度の平均点は以下の計算式によって計算しております。平均点が高いほど参加学生による評価が高いと言えます。

5段階評価の数字を満足度の点数と対応させる。

満足度計算式: {(満足度の点数) × (その点数を回答した参加学生の人数) の和} ÷ (回答者の人数(24名))

質問:むらコンにどの程度満足していますか？



参加学生の声(抜粋)

・何よりも4日間、最後にはお別れが寂しいと思えるくらい楽しく活動できたことが良かったです。発表も沢山議論を重ね、チームの全員が納得できるプランを伝えることができたことが達成感に繋がりました。

・住民目線で考える地域おこしは自分にとって難しいものでしたが、今後相手の目線に立つということのをこれまで以上に深く考えることができる機会になったと考えています。また、実際に地域で困っている方のお話を聞けたり、自分たちが考えたプランをその住民の方に聞いていただけたりとということを体験できたことは非常に貴重な機会であった

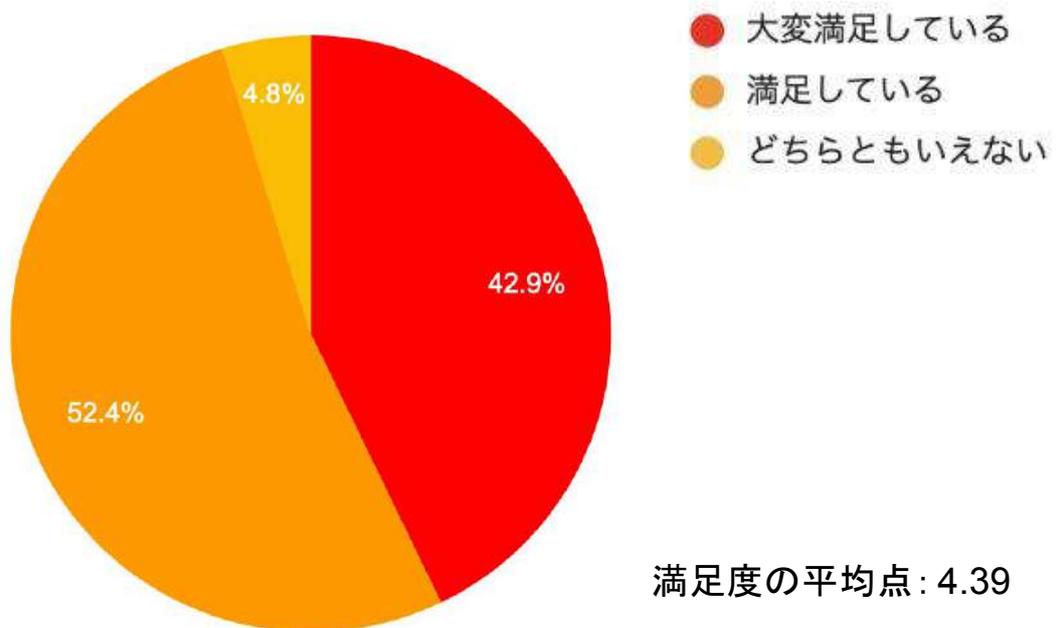
・大学では全く違う研究分野を学んでいるものの、同じ興味を持った人たちと集い、地域づくりに対するそれぞれの考えを本気で交わせたのが非常に刺激的だった

分析

・むらコンの満足度に対する5段階評価への回答は回答者全員が「大変満足している」または「満足している」と回答し、3以下の評価をした回答者は一人もいなかった。参加学生を一人として取りこぼすことなく満足していただけるコンテストを運営できたという点では高く評価できる。

・自由記述回答ではむらコンに満足すると答えた理由としてさまざまなものが挙げられていたが、「二度とない」、「経験したことのない」、「有意義かつ実践的な学び」といった貴重な経験であったことを示すワードが使われていた。参加学生一人一人の人生に良いインパクトを与えるコンテストを実現できたのではないかな。

質問: プランニングについて満足度を教えてください



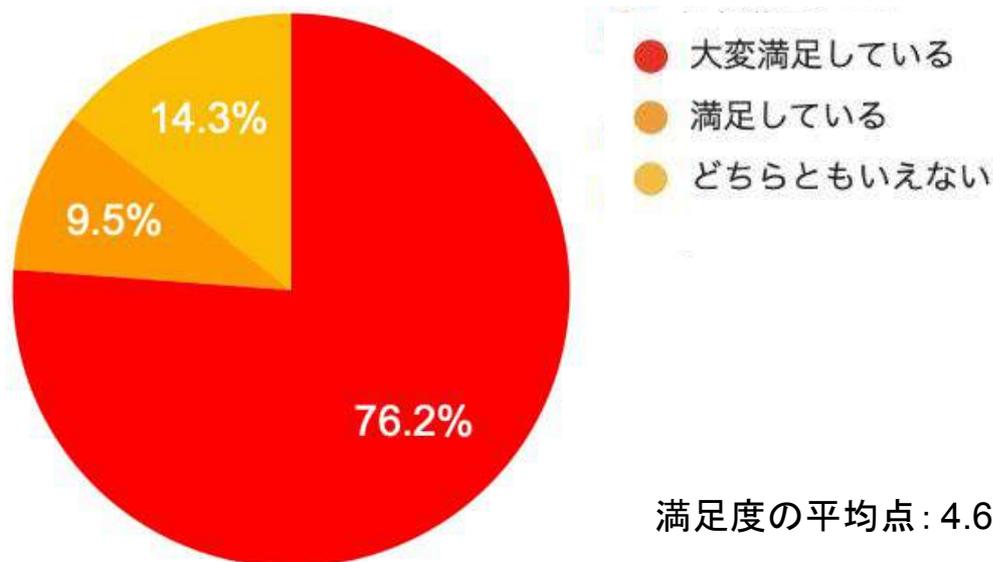
参加学生の声(抜粋)

- ・漠然としたところから具体的な解決策に移行するまでがとても大変で、そこからも課題が無限にでてきた
 - ・ひたすら時間が足りなく感じましたが、良い経験になりました。
 - ・思っていた以上に地域の方のお話を聞くことができたり、中継で地域を見ることができたりと大満足の4日間でした。私は九州から出たことがなく、関東にあまり詳しくなかったのですが、事前資料やインタビューのおかげで問題なく進めることができました。ただ、雑談する場合ではなく進んでいったので、もう少し時間にゆとりが欲しいなと感じました(笑)
- とても楽しく、充実した4日間でした。ありがとうございました！

分析

- ・ファシリテーターの努力もあり、プランニングに関しても参加学生からの評価は高いと言える。
- ・一方で「プランニングが実現性に重きを置くのか、それとも画期性に重きを置くのかが不明瞭である」、「自分たち学生がどの程度までプランの実現に関われるのかという前提が曖昧であった」、「プラン実現の段階においては学生は関われない前提でプランニングしたが、そのために自分たち主体の企画を立てることができず審査にも影響が出てしまった気がする」といった、プランニングの前提に対して戸惑う意見がいくつか見られた。コンテストとして当企画を行う以上、公平性は十分担保しなければならないため、運営側で前提はきちんと統一されていたか、その情報の、参加学生への共有は十分であったかは検証する必要がある。

質問: パネルディスカッションについて満足度を教えてください



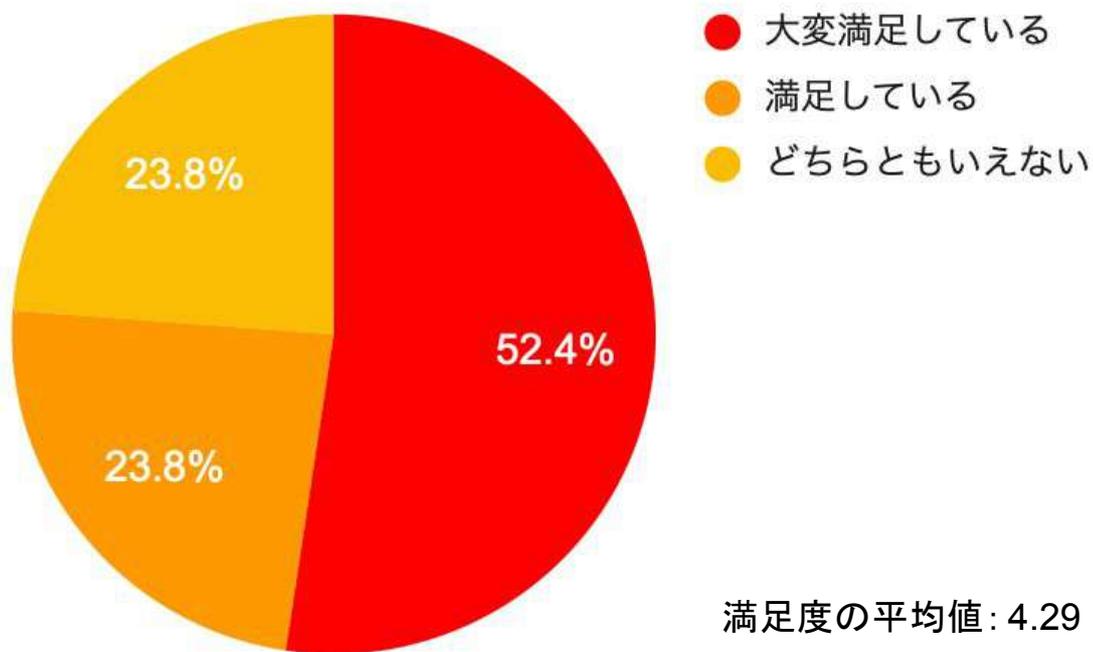
参加学生の声(抜粋)

- ・実際に第一線で活躍している方の意見は貴重だった。ものの考え方実際に仕事として取り組んでいる人だから見える視点があると感じ、勉強になった。
- ・普段、地方創生をお仕事にされている方のお話を聞いたことがなかったため、大変興味深かったです。私の地方とのかかわり方を見直すきっかけになったり、第三者ながらにここまで熱く取り組み、地域に信頼されている方がいるんだなと思いました。プランニングの間に入ることで、気持ち的にもリフレッシュできて有意義な時間でした。

分析

- ・パネルディスカッションは初めての取り組みであったが、参加学生の評価は、自由記述欄への回答も踏まえて基本的に非常に高かった。
- ・地方創生に興味がある方々が多く集う今回のコンテストにおいて、実際に地方創生に関する取り組みの最前線で活躍していらっしゃる方のお話を聞く機会が得られたことは参加学生にとっても非常に充実した経験になったであろう。
- ・さらなる改善案として、「パネルディスカッションを踏まえて参加学生同士でさらに考えを深めるディスカッションの機会があるとさらに良いと思った」という意見が寄せられた。
- ・「質問の方法に戸惑った」という意見も見られたため、質問の方法やその説明の仕方が適切であったかは十分検証する必要がある。

質問:最終発表会について満足度を教えてください



参加学生の声(抜粋)

- ・他のチームも含め、全員が自信を持って生き生きと発表している姿がとても良かったです。また、審査員の方からのコメントが頂けて、自分たちのプランの良かった点・足りなかった点を知るところまでできたのが良かったです。
- ・本当に現地・オンラインの運営は大変だったと思います。ありがとうございました。何かトラブルが起きたときは、チャットやマイクでもう少し早めに伝えて頂けるとありがたかったかなとは思いますが、しかし、本当に多くの方が参加してくれているのだろうと分かるぐらい大きな拍手に感動しました。

分析

- ・最終発表会についても「満足していない」と回答した回答者はおらず、一定程度満足していただけたと評価できる。
- ・「どちらとも言えない」と回答した方の中には機材のトラブルや審査の遅れなど、当日の運営の進行の滞りを評価の理由としてあげている方が複数人いた。コンテンツ自体への意見ではないため、全て滞りなく進めることができればさらに良い会にすることができたかもしれない。
- ・審査員の方から客観的な意見をもらえることができるなど、最終発表会のコンテンツの内容自体は高く評価する声が多く見られた。
- ・オンラインで観客あり(パブリックビューイング方式)の発表には独特の緊張感と難しさがあったことが、参加学生の自由記述による解答からもうかがえた。

参加学生の声

参加学生の、むらコンに参加しての感想を一部掲載いたします。

・参加して本当によかったです。本気で地域づくりについて興味を持っている、または、地域への知識はないけどこれからもっと知っていきたい、という考えを持っているメンバーで溢れていたため、自分自身も本気で取り組むことができました。沢山の仲間と考えに触れられて非常に濃い経験となりました。ありがとうございました。(明治大学 竹岡地区チーム)

・住民の方としっかり話す機会をもらえたことで、新しい価値観を認める経験ができたことも、非常に良かったです。(関西外国語大学 天神山地区チーム)

・思っていた以上に地域の方のお話を聞くことができたり、中継で地域を見ることができたりと、大満足の4日間でした。関東にはあまり詳しくないのですが、地区資料やインタビューのおかげで問題なく進められました。(日本女子大学 竹岡地区チーム)

・ここでの経験は、今後の私の人生に変化をもたらすきっかけとなったかと思います。(杏林大学 峰上地区チーム)

・ハードスケジュールだったが、自分の力にとてもなった。これからもむらコンに参加したことを糧に頑張ろうと感じた。(東海大学 湊地区チーム)

・むら塾の皆さんがどれだけ丁寧に準備されてきたのか、想像しただけで感謝の気持ちでいっぱいだった。初のオンライン開催とのことでしたが、なんの不便もなく勉強できました！(大学等非公開)

・むら塾の方の進行のおかげで、地方創生に関する知識が疎くても、楽しくプランニングを行うことができました。ありがとうございました。(大妻女子大学 天神山地区チーム)

・4日間あっという間であった。しかも、もう辞めたいと思うこともなかったため、非常に充実した日々を送ることができた。(長岡造形大学 峰上地区チーム)

8. 関連メディア情報

①富津っ子(2022.02.16)

「むらおこしコンテスト inふつつ2022レポート」

<https://futtsu.co/9065>

②読賣新聞(2022.02.22)

「天羽地域の創生案競う 富津でコンテスト」

<https://www.yomiuri.co.jp/local/chiba/news/20220221-OYTNT50000/>

③毎日新聞(2022.02.15)

「東大むら塾×富津市 金谷を「第二のダイニング」に 市南部、地域おこしコンで提案」

<https://mainichi.jp/articles/20220215/ddl/k12/040/113000c>

④新千葉新聞(2022.02.26)

「最優秀賞は金谷地区チーム「第二のダイニング」富津で東大むら塾 むらおこしコンテスト 地域創生案を競う」

9. 特別協賛・協賛企業の紹介

「むらおこしコンテストinふつつ 2022」は、次ページからご紹介いたします、企業様にご協賛いただきました。

また、他にも、クラウドファンディングや個人協賛を通じ、東大むら塾、富津市、天羽地区にゆかりのある方々をはじめとして全国の皆様からご支援いただきました。この場にて改めて深く御礼申し上げます。

誠にありがとうございました。

特別協賛①

株式会社 マインドシェア 様

株式会社マインドシェアは、顧客とともに選ばれる独自の価値をつくりあげ、戦略立案から開発、実施運営までを手掛けるマーケティング会社です。民間企業、行政から学校、子育て世代までを事業領域とし、地域マーケティングの部門の中でも「ムラの生命をマチの暮らしに、マチの活力をムラの生業に！」をテーマに、人材育成、特産品開発から交流人口拡大まで幅広いマーケティングに取り組んでいます。



MINDSHARE INC.

株式会社マインドシェア

地域づくり

民間企業のマーケティングサポートを通して培ったノウハウを活かし
地方創生の実現に向けた地方行政の経済活動をサポート

「^{いのち}ムラの生命”を“マチの暮らし”に
^{ちから}“マチの活力”を“ムラの生業”に^{なりわい}」

この言葉は28年間の地域づくり事業の中で一貫して中心に据えてきたテーマです。

地域産業を強くするためには、地域だけで考えていても成し得ません。

地域と都市部の相互作用の中こそ地域産業の継続的な発展があります。



地域づくり

地域資源の発掘・活用や、農林水産業、サービス産業の活性化を通じた地域づくり。「住んでよし、訪れてよし」のまち・ひと・しごとづくりをサポート。

- ・各種計画書作成サポート
- ・地域における中核人材の育成サポート
- ・特産品開発・オリジナル商品開発
- ・直売所・道の駅等コンサルティング
- ・地域へのインバウンド対策サポート など

都市農村交流

農林水産品の生産者と都市生活者が直接触れ合い、結びつける場として、近年盛んなマルシェなど、都市部における地域の市場拡大をサポート。

- ・地域ブランディングサポート
- ・地域産品の販路拡大サポート
- ・アンテナショップ等施設開設サポート
- ・地域の都市部でのイメージ調査
- ・地域産品の利用意向調査 など

PPP / PFI 事業サポート

PPP (Public-Private Partnership) や PFI (Private Finance Initiative) といった民間資金活用により、防犯灯の一斉 LED 化や公共施設を再生・再開発事業をサポート。

特別協賛②

富津市新富工場協議会 様

富津市新富工場協議会は、新富工場地区で様々な事業活動を行っている会社が加盟しており、現在25社が加盟しております。

当協議会は、会員相互の連絡を密にして、会員各社の事業活動の円滑化を図るとともに、地域社会の発展に貢献することを目的としております。

地域のみなさまとともに...

富津市新富工場協議会

 株式会社 アイ・エス・ビー

 **AKAHOSHI**
赤星工業株式会社

 NS-SSC NSステンレスサービスセンター株式会社

 株式会社 荏原製作所

 エム・エム・プラスチック 株式会社
MM PLASTIC

 株式会社 大滝商会

有限会社 岡本産業

 関東エアウォーター株式会社

 株式会社 駒井ハルテック

 富津火力発電所
株式会社 JERA

 株式会社 眞 正

 **Sumitomo**
Heavy Industries Modern, Ltd.
住友重機械モダン株式会社

 土井鋼材株式会社
DOI STEEL

 東京パワーテクノロジー株式会社

 東港金属株式会社
TOKO METAL
Ecosystem Creating Company

 **NIPPON STEEL**
NS-TEXENG 日鉄テックスエンジニアリング株式会社

 **NIPPON STEEL**
日本製鉄 技術開発本部

 日本ドラム株式会社

 日本ハイボルテージケーブル株式会社
NVC

 有限会社 日本パウアー
BAUER

 株式会社 ハマダ
HAMADA

 株式会社 ピーエスケー  東日本資源リサイクル株式会社
ASK AR

 株式会社 広田鉄工所
HIGUCHI

 リ・バレット株式会社
R

(あいうえお順 加盟 全25社)

A協賛①

THE FARM 様

農園リゾート【THE FARM】は、千葉県香取市に位置し、森や畑に囲まれた10万m²の広大な施設です。都心から車で80分程でアクセスでき、グランピング、コテージ、キャンプサイトのアウトドア宿泊、野菜収穫体験、BBQ、天然温泉、THE FARMカフェなどが揃った複合型施設です。アウトドア・アクティビティはいつも10種以上体験できて、非日常体験を満喫できる1日をお過ごしいただけます♪



A協賛②

有限会社 ちばマガジン 様

有限会社ちばマガジンは、各種印刷物の企画制作、広告宣伝、インターネットを利用した各種情報サービス、ふるさと納税支援業務等を行っている会社です。知る人ぞ知る名店や人気おでかけスポットなど、千葉県の魅力を伝える情報誌「月刊ぐるっと千葉」をはじめ、グルメ別冊「あなたの街の美味しいお店」も発行しております。これからも「千葉県」を盛り上げていきます！





本企画の趣旨にご理解いただき、開催のための温かいご支援・ご協力を賜りました、全ての皆様に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

むらおこしコンテスト inふつつ2022
 最終報告書 令和4年3月制作
 東大むら塾 小原颯一郎 谷保梓樹